

#6 民数記の中に啓示されている神聖な三一

(民数記結晶の学び) 2019/4/1-7

I. 「三一の神」は、おもに神ご自身、神聖なパーソンを指しています。「神聖な三一」は、おもに神が三一であることを指しており、それは神格の主要な属性です。啓1:4-5 ヨハネがアジアの七つの召会に書き送る。恵みと平安があなたがたにあるように。今おられ、昔おられ、やがて来ようとしておられる方から、また彼の御座の前の七つの霊から、また忠信な証人、死人の中から最初に生まれた方、地上の諸王の支配者であるイエス・キリストからあるように。私たちが愛して、彼の血によって私たちが罪から解放し、

II. 全体として、聖書は神聖な三一で構成されています。

III. 私たちが祈りの霊をもって、私たちの時間とエネルギーを費やし、私たちの全存在を活用して、聖なる御言の中に啓示されている神聖な三一についての徹底的で網羅的な学びをすることは、非常に価値のあることです。

IV. 聖書には、多くの明確な教えが含まれていますが、神聖な三一の教えや教理に関しては、聖書は直接的には述べていません: **A.** 反対に、聖書の初めから終わりまで、神聖で霊的な事実が多く描写される中で、神聖な三一が示されているだけです。 **B.** 聖書に神聖な三一に関する教理がないという事実が強く示している事は、神聖な三一は神がご自身を私たちの中へと造り込むためであるということです。それによって、私たちは彼にあずかり、彼を経験し、彼を享受します。これは、マタイ28:19とⅡコリント13:14によって完全に証明されます。【月】

C. 聖書の中で神聖な三一について直接的に、あるいは間接的に述べられ、示され、暗示されているものはすべて、私たちが三一の神にあずからせるためです。

D. 私たちは、御言の中で神聖な三一について述べている箇所を学ぶときはいつも、教理の教えを探すことで満足すべきではありません。そうではなく、この部分は、私たちがどのようにして三一の神にあずかり、彼を享受し、経験するかを知るためであることを認識すべきです。

V. 聖書の啓示全体によれば、神聖な三一は神の分与のためです: Ⅱコリント13:14 主イエス・キリストの恵みと、神の愛と、聖霊の交わりとが、あなたがた一同と共にありますように。 **マタイ28:19** だから、行って、すべての諸国民を弟子とし、父と子と聖霊の名の中へと彼らをバプテスマして **A.** 三一の神の分与と言うよりも、神聖な三一の分与と言うほうが、より正確です。 **B.** 神の願いと彼の強い意図は、ご自身を彼の選ばれた人の中へと分与して、彼らの命、命の供給、すべてとなることです。 **C.** 神聖な三一がなければ、神は彼の神聖な分与を遂行することができません。 **D.** 新約が啓示している事は、神聖な三一の三者がみな私たちの中にいるということです。【火】

VI. 神聖な三一は、私たちのクリスチャン生活の模範です: **I** **テサロニケ5:23** そして平和の神ご自身が、あなたがたを徹底的に聖別し、あなたがたの霊と魂と体とを守って、私たちの主イエス・キリストの来臨の時に、完全で責められるところのない者にしてくださいますように。 **A.** 私たちの中の争いのゆえに、私たちは神聖な三一と協力することを学ぶ必要があります: **1.** 神聖な三一の三者の間には、調和があります。 **2.** 御父は喜んで御子を高く上げます。御子は進んで御父に服従します。その霊は御子に関して証します。 **B.** 私たちの三部分から成る存在については、私たちは内住する神聖な三一と協力する必要があります。 **ヨハネ14:23** イエスは彼に答えて言われた、「だれでも私を愛する者は、私の言を守る。そして私の父は彼を愛され、私たちは彼の所へ行って、彼と共に住まいを造る」。

C. 最終的に、私たちの全存在(霊、魂、体)は、神聖な三一の栄光を現します。内住する神聖な三一と私たちが協力した結果は、彼の栄光が現されること、彼の表現、彼の現れです。 **D.** クリスチャン生活は、私たちが神聖な三一とミングリングされる生活です。 **1.** 私たちのクリスチャン生活において、神は四つの手段を用いて、私たちが神聖な三一とミングリングさせます。それは、神聖な命、十字架、その霊、御言です。 **2.** 私たちは、神聖な命の中で、十字架を通して、御言を通して、いつもその霊と交わりを持つべきです。

VII. 表面的には、民数記という書は、神の民を数えることの記録であり、また荒野における彼らの行程の記録です。実は、この記録は、神聖な三一をもって構成されています: **A.** 神聖な三一がなければ、民数記における記録は、空虚になってしまいます。民数記の記録の内在的な実際は、神聖な三一です。【水】

B. 民数記第1章において私たちは、三一の神が肉体と成ったことを見ます: **1.** 民数記第1章において三一の神が肉体と成ったことを見るために、私たちは幕屋と箱という事柄を考える必要があります。 **2.** 幕屋の中には、箱がありました。箱の中には、律法があり、それは「証し」と呼ばれました。 **3.** 律法は神の証しです。なぜなら、律法は神を証し、私たちに神を見せるからです。 **4.** 事実上、神は中心ですが、私たちが持っているのは、単にご自身の中にある神ではなく、金で覆われたアカシア材から作られた箱の中にある神です。箱は、木と金という二つの要素から成る一つの実体であり、人性の中で神性を帯びているキリストを予表しています。 **5.** 幕屋と箱という絵の中で私たちが見るのは、三一の神が肉体と成って、人と成り、人の間で生活するという事です。 **6.** 幕屋における枱板の数の四十八は、とても意義のあるものです。 **a.** 四十八は、六かける八から成っており、それは復活(八)における人(六)を表徴します。 **b.** 四十八はまた、十二かける四から成っており、それは、被造物(四)における三一の神(三かける四から成る十二という数に含まれている)を表徴します。 **c.** この絵の中で私たちは、三一の神を見、人を見、三一の神が人の間に住まわれることを見ます。 **7.** 幕屋と箱というこの絵から私たちが見るのは、神がもはや天にだけおられるのではないということです。彼は地上にもおられ、彼の具体化である人、すなわちイエス・キリストの中にもおられます。 **8.** 肉体と成って、人として具体化された三一の神は、拡張され、増し加わり、拡大されました。彼の拡張と拡大において、キリストは幕屋、すなわち、神の住まいとなりました。 **ヨハネ1:1** 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。 **14** そして言は肉体と成って、私たちの間に幕屋を張られた。それは恵みと実際に満ちていた。私たちが彼の栄光を見た。それは、父からのひとり子としての栄光であった。 **a.** 神がキリストの中にだけおられたとき、だれも彼の中へと入ることができませんでした。キリストの拡張がなければ、だれも神の中へと入ることができませんでした。 **b.** 今や、キリストが拡張して幕屋となったことにおいて、キリストは神の住まいであるだけでなく、私たちが神の中へと入ることができる場所でもあります。 **c.** 今日、私たちは神の中へと入って、キリストを私たちの命とすることができます。そして、彼は私たちの生活の意義となります。 **d.** 彼は私たちの命であり、私たちの生活の意義となるので、彼は私たちの証しです。私たちがあらゆる面において、彼を生き、彼を表現し、彼を示します。そして彼は自然に私たちの中心となります。 **6.** 三一の神の具体化であるキリストは、拡大されて、一つの住まいとなりました。神はその中に住まれ、私たちはその中へと入ります。 **7.** 神は一つの住まいを持っています。そして私たちも一つの場所を持っており、私たちがそこにおいて神の中へと入り、神と会い、神とミングリングされることが出来ます。【木】

C. 神聖な三一は、ナジル人の分離において啓示されています：**1.** 神聖な三一がナジル人の分離と関係があったという事実は、ささげ物(全焼のささげ物、罪のためのささげ物、平安のささげ物、穀物のささげ物)によって示されています。

民6:17 また、彼は雄羊を平安のささげ物の犠牲として、一かごのパン種のないパンと共に、エホバにささげなければならぬ。祭司はまた、その穀物のささげ物と注ぎのささげ物をささげなければならぬ。**2.** ナジル人は、集会の天幕の入り口に連れて来られました：**a.** 集会の天幕は、神の住まいとしての、また神の民が集まる場所としてのキリストを指しています。**6:13** これは、分離の日が満ちた時のナジル人の規則である。彼は集会の天幕の入り口に連れて来られなければならない。**b.** キリストは集会の天幕として、私たちが神聖な三一を享受するための立場と範囲です。**3.** 「エホバ」という神聖な称号は、神と人との関係を示しており、また三一を示しています。**4.** ナジル人が分離されたことは、彼が予告において、神聖な三一の神聖な分与にあずかるためでした。**【金】**

D. 神聖な三一は、幕屋とささげ物の機能において啓示されています：**民7:1** さて、モーセは幕屋を建て終わった日に、幕屋に油を塗って聖別し、またそのすべての調度品と祭壇とそのすべての器具に油を塗って聖別した。その日、**1.** 幕屋と祭壇の機能が開始したことは、神聖な三一と関係がありました。**2.** 幕屋とささげ物の機能は、民数記第7章において祭壇奉獻のためのささげ物をもって開始しました。**3.** この祭壇奉獻は、幕屋とそのすべての調度品のためであり、また祭壇とそのすべての器具のためであり、神聖な三一の分与を通してそれらは機能するようになりました。それによって、神の贖われた民は神聖な三一の豊富を享受することができました。

E. 神聖な三一は、幕屋を覆った雲と火において啓示されています：**民9:15-17** …雲は幕屋、証しの天幕を覆った。…いつもこのようであった。昼は雲が幕屋を覆い、夜は火のように見えた。雲が天幕から上るときはいつも、すぐイスラエルの子たちは出立した。そして雲がとどまる場所に、イスラエルの子たちは宿営した。**1.** 雲と火が幕屋を覆ったことが示しているのは、神聖な三一が、神の民がとどまったり行程を行ったりするためであるということです。それによって彼らは、絶えず、すべての行程にわたって、神聖な三一の豊富を享受することができます。**2.** 彼らがとどまったとき、また彼らが行程を行ったとき、神の臨在が神聖な三一として彼らと共にありました。

F. 神聖な三一は、打たれた岩において啓示されています：**1.** 岩は、神の民について来た、十字架につけられたキリストを予表します。水は、命の霊を予表します。**2.** 民数記第20章における打たれた岩が示しているのは、神聖な三一が神の民の行程において彼らについて来て、彼らの渴きをいやし、彼らに神聖な命の豊富を享受させるということです。**【土】**

用語の説明

A. **エホバ:** エロヒムは創造との関係における神の御名ですが、エホバは人との関係における神の御名です。エホバは「私は『私はある』である」を意味します。

B. **祭壇奉獻:** 幕屋、調度品、祭壇はその機能の開始のために油塗られ、ささげ物が献げられました。

C. **塗り油:** 人や物が聖別され機能を開始するために、特別に調合された塗り油が塗られました。この塗り油はすべてを含む霊を表徴します。

D. **雲と火:** 幕屋の上には、日中は雲の柱があり、夜間は火の柱がありました。雲と火の柱は神の霊を表徴し、神の臨在をもたらしました。雲の柱と火の柱が動くとき、イスラエルの民は幕屋を移動しました。

E. **ついて来る打たれた岩:** 神の民が荒野で渴いた時、

エホバはモーセにある岩を打つよう命じ、そこから水が出て民は飲みました。これは岩としてのキリストが十字架上で裂かれ、その霊としての水が流れて人を潤すことを示しています。

1コリント10:4 みな同じ霊の飲み物を飲みました。すなわち彼らは、彼らについて来た霊の岩から飲んだのです。そしてその岩はキリストです。

I. 高い福音 第10課 キリストの救い(上)

ヨハネ3:16 神はそのひとり子を賜わったほどに、世の人を愛された。それは、彼の中へと信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を持つためである。

ローマ5:10 というのは、私たちが敵であった時に、神の御子の死を通して神に和解させられたからには、和解させられている今、さらにいつそ彼の命の中で救われるからです。

永遠において、神は大きい喜び、彼の心の願いがありました。それは人と一つになり、人を彼と同じようにならせ、彼の種類とすることです。ですから神は人を創造する時、彼のかたちに、彼の姿に造り、人が彼を入れる器となるようにされたのです。造られたアダムは神のかたちと神の姿を持っていました。ですから創造の時、神・人に関する思想がすでにありました。

新約において、神は命としてのご自身をもって、人を再生しました。**ヨハネ1:12**は言います、「しかし、すべて彼を受け入れた者、すなわち、御名の中へと信じる者に、彼は神の子供たちとなる権威を与えられた」。私たちは神の子供たちとなる時、神の命と性質を持ちます。やぎはやぎを生み、牛は牛を生むので、神が神を生むのは当然です。牛が牛を生み、やぎがやぎを生むのに、神が人を生むとしたら、これは実に不思議なことです。生まれたものは、生むものと同じでなければなりません。牛がろばを生んだり、やぎが犬を生んだりすることはありません。神の心の意図は、私たちが彼であるのと同じにし、私たちが内側のかたちと外側の姿だけでなく、彼の命と性質においても、彼と完全に同じになることです。

神は世の人を愛し、彼の命によって人を彼と同じようにしようとしてされました。ところが人はサタンにそそのかされ、罪を犯して墮落し、こうして神の義に違反しました。ですからここで二つのもの、神の愛と神の義を見ます。神の愛によれば、神は人を彼と同じにしようとしてされます。ところが人は罪を犯し、神の義に違反しました。ですから神が彼の命にしたがって有機的に人のために行ないたいすべてのことは、神が彼の義なる要求にしたがって、墮落した罪人を法理的に贖い戻すことを要求します。これが贖いです。ですから神の全体的な救いは、法理的に要求される贖いと、神の命を通して有機的に達成される救いから成っているのです。

神の法理的な要求を成就することは手続きであり、

神が有機的に行ないたいことを達成するのは目的である

神の全体的な救いにおいて、法理的な面で行なわれることは手続きであり、有機的な面で行なわれることは目的です。

神の救いの法理的な面

手続きとして、神が彼の法理的な要求にしたがって成就されたことは贖いであり、罪の赦し、罪の洗い清め、義認、神への和解、地位上の聖別を含みます。しかし神の全体的な救いはこれだけではありません。もしあなたが贖いのこれら五項目を受けただけなら、あなたが受けたものは片面の救いであって、全体的な救いではありません。神の全体的な救いの第一の面は法理的であり、私たちの罪が赦され、洗い清められ、私たちは義とされ、神に和解させられ、地位上、聖別されました。これらの項目はすべて、手続き、資格、地位の事柄です。この法理的な面は、私たち罪人に資格と地位を与えて、神の恵みの中に入らせ、神が目的の面で、彼の命にしたがって、有機的に私たちのために達成された救いを享受させます。

Crucial Point①:神聖な三一は、神学の研究のためではなく、神聖な分与のためである

OL1:私たちが祈りの霊をもって、私たちの時間とエネルギーを費やし、私たちの全存在を活用して、聖なる御言の中に啓示されている神聖な三一についての徹底的で網羅的な学びをすることは、非常に価値のあることです。

OL2:私たちは、御言の中で神聖な三一について述べている箇所を学ぶときはいつも、教理の教えを探ることで満足すべきではありません。そうではなく、この部分は、私たちがどのようにして三一の神にあずかり、彼を享受し、経験するかを知るためであることを認識すべきです。

OL3:神の願いと彼の強い意図は、ご自身を彼の選ばれた人の中へと分与して、彼らの命、命の供給、すべてとなることです。

Ⅱコリント 13:14 は三一(御子イエス・キリスト、父なる神、聖霊)について語っていますが、三一に関する教理を教えていません。そうではなく、三一の神が述べられている方法は、私たちが三一の神を愛、恵み、交わりとして享受する必要があることを示しています。源としての愛は父なる神に相当します。表現また経路としての恵みは子なる神に相当します。恵みと愛は霊なる神の到達、交わりを通して私たちの中へと伝達されます。これは三一の神を愛、恵み、交わりとして享受することです。これは、三一の神が私たちの享受のためであることを示します。

聖書の中で三一について直接的に、あるいは間接的に述べられ、示され、暗示されているものはすべて、教えのためではなく、私たちが三一の神にあずからせるためです。これは深く私たちの中へと印象づけられる必要があります。

聖書の六十六巻の啓示全体によれば、神たる方の三一は神の分与のためです。神の願いと彼の強い意図とは、ご自身を彼の選ばれた人の中へと分与して、彼らの命、命の供給、すべてとなることです。これを行なうために、あるいはこの分与を遂行するために、彼は三一である必要があります。彼の三一がなければ、彼には神聖な分与を遂行することができません。ですから、彼の三一は絶対に神聖な分与のためです。

適用: 中高生、大学生編

Ⅱコリント 13:14 主イエス・キリストの恵みと、神の愛と、聖霊の交わりとが、あなたがた一同と共にありますように。

神は、父、子、霊の三一の神であり、それは神学の研究のためではなく、人が享受するためです。数学では三であり、一であることはあり得ませんので、天然の思いが神聖な三一を完全に理解することはできません。しかし、神聖な三一の聖書の啓示を純粋に受け入れて、それを享受することができます。神は唯一ですが、父、子、霊の三つの面があります。

父は水源であり、子は泉であり、霊は川の流れです。霊は流れてすべての人に届きます。三一の神は、御子が肉体となり、復活の中で命を与える霊となり、すべての人に届きます。水源である神は無限の供給の源ですが、目には見えません。しかし、それが泉として湧き上がるとき人はそれを見、またあずかることができます。さらに進んで、御子は復活の中で命を与える霊となりました。この霊は、川のように人の住む全地に流れ出て、すべての人の中に入り、人が飲んで享受できるようにします。それは人が神聖な三一の神聖な分与によって、三一の神を享受するためです。神の願いは、あなたが三一の神を享受することです。

ヨハネ 4:13 イエスは答えて言われた、「この水を飲む者はだれでも、また渴く。14 しかし、私が与える水を飲む者はだれでも、決して永遠に渴くことはない。私が与える水は、その人の内で源泉となり、湧き上がって、永遠の命へと至るのである」。

**The love of God and the grace of Christ
And fellowship of the Holy Spirit
Be with you, be with you all,
Be with you all, be with you all.
From the throne of our God and the Lamb
Flows a river of water of life,
Bright as crystal, reaching man.**

多くの人は、聖書の教えは宗教的な人を生み出すためだと考えていますが、それは間違っています。聖書は明らかに私たちの三一の神が、人の享受であることを示しています。このためにあなたは次の三つのことを実行して三一の神の分与にあずかってください。

(1)毎朝、御言葉を祈り読みして、主を享受する:毎朝、10分から30分の時間を聖別して、主の御言葉を祈り読みし、主を享受してください。このことは神聖な三一の分与にあずかって一日を開始することを意味します。したがって、毎朝復興の実行は極めて重要です。

(2)毎日の学校生活で神聖な三一の分与の下に留まる:日常生活で、勉強したりクラスメイトと遊んだりするとき、あなたは霊の中で祈り、主に触れ続けてください。そうすればあなたは勉強や生活態度において、主の証しを持つことができ、人を引き付けます。例えば、あなたは以前個人主義的な人であり、人が悩んでいても無関心でした。しかし主に触れることで、人に対する優しい感覚が出てくるようになり、彼のために祈り、話しかけたい気持ちが起きてきます。そして主と共に彼を牧するために接触します。クラスメイトはこのようなあなたの変化に驚くでしょう。このようにして内側の享受が外側の表現になることを神は願っています。

(3)集会に来て主を団体的に享受する。ウィークデーに家庭集会(LINE などによる交わりを含む)を持ち、主日に主日集会に参加する:ウィークデーに30分くらい兄弟姉妹と接触し、御言葉を読み、交わり、祈ってください。このような家庭集会は、あなたを養い、成長することを助けます。また週の初めである日曜日は、主日と呼ばれています。**啓 1:10 私は主日に霊の中にいた。**この日は主の日であるので、この日を聖別し、主日集会に参加して、主と混ざり合い、兄弟姉妹とブレンディングされるようにしてください。そうすればあなたは団体的にキリストを豊かに経験することができます。

祈り:「おお主イエスよ、御言葉の中の神聖な三一を信じ受け入れます。私の制限された思いでは、神聖な三一を完全に理解することはできません。しかし神聖な三一は教理上の理解のためではなく、人が享受するためです。三一の神は、受肉、十字架、復活を通して、命を与える霊となられ、私の中に入り、私が経験し享受することができます。毎日あらゆること、勉強や人間関係で三一の神を享受できますように。アーメン！」

Crucial Point②:神聖な三一を自分自身の三一と他の人との組み合わせの中で経験し、コミュニケーション能力を向上させる

OL1:神聖な三一は、私たちのクリスチャン生活の模範です。

OL2:神聖な三一の三者の間には、調和があります。御父は喜んで御子を高く上げます。御子は進んで御父に服従します。その霊は御子に関して証します。

OL3:クリスチャン生活は、私たちが神聖な三一とミングリングされる生活です。私たちのクリスチャン生活において、神は四つの手段を用いて、私たちを神聖な三一とミングリングさせます。それは、神聖な命、十字架、その霊、御言葉です。

人は三部分(体、魂、霊)から成っている、「人の三一」と考えられるでしょう。神聖な三一とは異なり、「人の三一」の内側には常に戦いがあります。聖書は、私たちの体である肉の欲することが、神聖な霊とミングリングされている私たちの霊に逆らい、あるいは戦うと言います。私たちの肉はまた私たちの思いとも戦います。

肉は、正しい事を行なうことを願う論理的な魂に逆らって戦います。私たちの魂が善を行なうことを願うときはいつでも、私たちの邪悪な肉の中の罪が起き上がり、私たちの魂に逆らって戦います。私たちはまた内側に主イエスを持っており、彼は私たちの霊の中に住んでおられます。これがさらに問題をひき起こします。なぜなら、彼は肉に対してノーと言ひ、大部分の時、魂に対してノーと言われるからです。私たちの中の争いのゆえに、私たちは神聖な三一と協力することを学ばなければなりません。

神聖な三一は、私たちのクリスチャン生活の模範です。神聖な三一の間に戦いはありません。御父は喜んで御子を高く上げます。御子は大いに進んで御父に服従します。その霊は進んで御子に関して証します。私たちの「人の三一」はこのようではありません。ですから、私たちは救い主を必要とします。この救い主は、私たちの霊の中へと入って来られた神聖な三一です。私たちは救われた後、私たちの「人の三一」は内住する神聖な三一に従う必要があります。最終的に、私たちの全存在(霊、魂、体)は、神聖な三一の栄光を現します。内住する三一とのこの協力した結果は、彼の栄光が現されること、彼の表現、彼の現れです。

たとえ私たちが魂で選択し決定しても、魂だけで行動することはできません。御子は事を行なった時、ご自身の意志にしたがってではなく、御父のみこころにしたがって行なわれました。同じように、私たちの魂は自分自身の意志にしたがってではなく、霊の意志にしたがって事を行なうべきです。これが、私たちが救われた後の生活です。私たちが救われた後、神聖な三一は私たちの三部分から成る存在に加えられました。神聖な三一と命を交換するのでなく、私たちは彼と共にミングリングされており、またミングリングされつつあります。クリスチャン生活は、「人の三一」が神聖な三一とミングリングされることです。この二つの「三一」は、ミングリングされて一になっています。

適用: 青年在職、大学院生編

1 The Son with the Father by the Spirit—
O what a mystery!

The fulness of all the Godhead
Dwells in Him bodily.

Wonderful One, Son with the Father,
Wonderful One, Son by the Spirit,
Wonderful Jesus Christ,
Wonderful Triune, Wonderful Triune God.

3 This man in perfection chose God as His living;
He lived the life of God.

The sin, world, and Satan could not penetrate Him;
Jesus had sinless blood.

Humanity, His blood has cleansed me.
Divinity, my guarantee.

His sinless blood cleansed me.

God's now my guaran—, God's now my guarantee.

4 His flesh without sin joined man's flesh full of sin
And this trapped Satan.

Man's flesh, sin and Satan were hanging upon Him
O what a termination!

Terminating, the old creation,
Penetrating, flesh, sin and Satan.

O what a promised seed!

He crushed the Devil's, He crushed the Devil's head.

5 And in resurrection, this wonderful Person
The Spirit He became.

The Spirit right now is the Son with the Father
To be the consummation.

Wonderful One, life-giving Spirit!

Son has become the consummation.

Son with the Father, He

As Spirit dwells in, as Spirit dwells in me.

神聖な三一は、あなたの生活の模範です。あなたは自分自身の三一(霊、魂、体)と他の人との組み合わせの中で、神聖な三一の組み合わせを学ぶ必要があります。

(1) 自分自身の三一において:

ローマ 7:18 私は自分の中に、すなわち、自分の肉の中に、善なるものが住んでいないことを知っています。なぜなら、私は善をしようと欲するのですが、善を行ない出すことはないからです。20 もし私が欲していないことを行なうなら、それを行ない出すのはもはや私ではなく、私の中に住んでいる罪です。22 私は、内なる人によれば神の律法を喜びますが、23 自分の肢体の中には別の法則があって、私の思いの法則に逆らって戦っており、私の肢体の中にある罪の法則の中に、私をとりこにしているのを見ます。24 何と私は苦悩している者でしょう!

あなたは自分自身の霊、魂、体の中で、神聖な三一を経験すべきです。

兄弟の証し: 私は四半期に一度の本部会議で、自分が何をしたいのかを祈り、よくよく検討し、まとめて部下に発表しました。困難に遭い迷ったときに、自分が話したことを思い出し、自分の行動が、言動不一致になっていないかどうかを考慮しました。多くの時、私の霊、魂、体には不一致があり、争いがありますので、混乱しています。そのような時、内側で神聖な三一を経験して、自分が発表したことに自分の行動を合わせることにしました。このようにして自分自身の三一を持つとき、物事は祝福されました。神聖な三一を経験できることを感謝します。

(2) 他の人との組み合わせにおいて: 会社ではほとんどのことは他の人と協力しながら行う必要があります。したがってコミュニケーション能力がとても重要です。コミュニケーション能力というのは、ただ言葉で伝えるだけでなく、他の人と共に業務を行う時に、その人を楽しくさせたり、やる気にさせたりすることを含みます。このために、あなたは神聖な三一の間の調和を経験してください。神聖な三一、父、子、霊の間には、何の不一致も争いもありません。あなたが人との組み合わせの中で不愉快になるとき、主の御名を呼び、神聖な三一の調和を経験することができれば、あなたのコミュニケーション能力は大幅に改善されるでしょう。

祈り:「おお主イエスよ、神聖な三一の間の調和を、私自身の三一と他の人との組み合わせにおいて経験させてください。私は他の人と不調和があるだけでなく、自分自身の中にも分裂と争いがあります。神聖な三一が私の霊から魂、体にもまで浸透してください。神聖な三一の分与の下で、私の会社や研究室におけるコミュニケーション能力を引き上げてください。」